



From China

海外レポート

大連市の環境施策と環境ビジネス事情

1 はじめに

現在「世界の工場」と呼ばれ、目覚ましい発展を遂げている中国。その証として、世界中に「MADE IN CHINA」と表示された商品が溢れています。2010年には、国内総生産(GDP)が日本を抜いて世界第2位となる等、米国の並ぶ経済大国になりました。

中国の発展は、90年代後半より日本や欧米各国の企業が生産コスト削減の為に、労働賃金の安い中国へ工場を移転したことが大きな要因の一つといえますが、現在では、中国国内の旺盛な購買力に着目して、消費地である中国で製造することによって、関税や物流コストの削減を図ることを目的とする企業進出の形態も数多く見られるようになりしました。

このように中国が発展してきた動きは、日本の高度経済成長期のそれと酷似しているだけでなく、当時の日本と同様に深刻な環境問題を引き

起こしています。

日本のGDPが世界第2位となった当時を振り返ると、大気汚染をはじめとする公害の発生により、生活環境が悪化したという歴史がありますが、現在の中国もその時と同じ様に、窒素酸化物(NOx)や硫黄酸化物(SOx)といった汚染物質の大気中の濃度が高まっているだけでなく、粉塵も発生する等、人体への悪影響が懸念されています。

また、近年の地球温暖化への世界的な関心の高まりを受け、それまで「経済発展重視、環境度外視」というスタンスであった中国政府も、地球の一員としてこれらの問題への対策に迫られる事態となっています。

そのような中、日中間では首脳・閣僚レベルでの外交が積極的に行われており、省エネ・環境分野における行政間の協力関係の構築が図られているほか、産業界でも「日中省エネルギー・環境ビジネス推進協議会」が立ち上がる等、日中間での協力体制が整備されてきています。

2 大連市政府としての取り組み

大連市は79年に北九州市と友好都市を締結しています。友好都市である北九州市は、重工業の街であることから、過去に大気汚染や水質汚濁に苦しめられた苦い経験を持っていますが、ここ大連市も北九州市と同様、重工業が主要産業であることから、深刻な公害問題に悩まされていました。

この公害問題を解決すべく、まず81年に北九州市の主催により「公害対策講座」が大連市にて開催されたほか、以降も北九州市の協力のもと、中国国内で先立って環境問題に対処してきました。

97年には中国政府が推進する環境モデル都市に選ばれる等、環境対策に積極的に取り組んだ結果、01年には北九州市も90年に受賞している国連環境計画(UNEP)の「グローバル500」に中国の都市として初めて輝きました。これにより、中国だけでなく世界の環境先進都市として広く認知されるようになりました。

れたほか、既存の事業もモデル園區への移転等を行うことになっていきます。

現在、廃棄物の物流体制の整備や、立地についてのインセンティブ等を検討中であり、既に中国企業9社の立地が決定しているほか、日系企業数社の合弁・独資形態での進出も大詰めの段階にきているようです。

この事業においても、北九州市のエコタウン建設のノウハウが活かされており、大連エコタウンが中国国内のエコタウンのモデルとなることは確実です。

4 大連市の下水道協力について

今年4月、北九州市建設局と大連市都市建設管理局が「下水道整備に関する協力の覚書」を締結しており、今後、水処理や汚泥処理について広範な技術交流と協力を進めていくことが約束されました。これは、行政間では人材の研修や下水設備の維持管理ノウハウを移転し、北九州市の海外水ビジネス推進協議会の会員企業は、先進の水処理や汚泥活用技術を売り込もうという意図もあります。ビジネスを念頭に置いた、新しい国際協力の形と言えるかもしれません。

5 終わりに

これまでご紹介してきたように、昨今中国でも「環境」が重要なキーワードになっています。政府だけでなく民間企業でも、環境保護や省エネに関する意識が芽生えています。

大連市街では、ハイブリッドのタクシーやバスが走っており、エコをセールスポイントとした住宅の広告も溢れています。

中国は、経済面では先進国に追いついた感がありますが、先進国と呼ばれている国家は、経済面だけではなく、文化やライフスタイル等も先進的でないならぬと思います。

環境面についても同様で、今後は中国政府の強力な指導が期待されることから、環境分野の急速な発展が見込まれます。

「世界の工場」と言われている中国が、世界の環境先進国家になれば、地球にとって最も望ましいこととです。環境分野での中国進出は、新たなビジネスチャンスとなる可能性だけではなく、地球レベルでの環境問題への貢献にもなると思われれます。

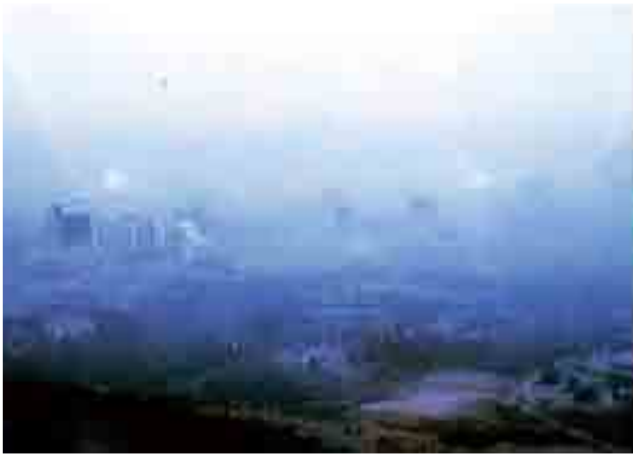
(大連駐在員事務所 宮城 正志)

近年についても、06年に日本のエコタウンのノウハウを活用した都市間連携による循環型都市実現に関する協力が日中政府間で合意され、10年に「北九州市と大連市による日中循環型都市プロジェクト 大連市生態工業モデル園区（静脈産業類）協力に関する覚書」を締結したほか、今年には「下水道整備に関する協力の覚書」を交わすなど、北九州市と大連市での環境関連分野における積極的な国際協力が進んでいます。

3 大連市生態工業モデル園区（静脈産業類）

静脈産業とは、製品が廃棄物等になった後に、その適正なりサイクルや処分等を行う産業を表す言葉です。本事業では、再生資源の回収・選別・加工・再利用等を集約し、効率化を図る為に、庄河市（大連市の一部）に10年よりモデル園区の建設を開始しました。園区の総面積は12平方キロメートルとなる計画です。

大連エコタウン事業は、国家級のプロジェクトであり、青島・天津と並ぶ中国三大エコタウンとしての整備を目指すものです。大連市も「大連市循環経済促進条例」を交付し、廃家電や廃自動車といった特定製品の解体・処理を行う新規事業は全てモデル園区内に建設することが義務化さ



1994年の大連



2000年の大連 【出所:北九州市HP】



生態モデル園区完成予想図 【出所:大連環境保護産業協会HP】